

○議長 辻本 一夫君

次に4番、萩原議員の一般質問を許します。萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

4番、萩原です。通告に従いまして質問してまいります。

件名1、歴史・文化の推進について。

昨年6月、歴史文化資産の保存・継承を一体的に行い芦屋町の活性化を総合的に推進するため、教育委員会部局が所掌する芦屋町歴史民俗資料館の管理や文化財保護など、歴史文化に関する事務が町長部局に移管されました。この組織機構の見直しは芦屋釜の里との連携強化や、歴史的・文化的資産について観光及びシティープロモーションなどとの連携強化を目的にしているとのことで、私は今以上に、歴史文化を生かした町の魅力づくりに町が取り組まれるものと期待いたしました。しかしながら昨年の6月定例会では、芦屋釜・歴史文化課としての新たなプランなどをお伺いすることはできませんでした。そこで、次の点についてお尋ねいたします。

要旨1、芦屋歴史の里の状況についてお尋ねいたします。

芦屋歴史の里では1月11日～5月7日までの日程で、現在特別展が開催されています。芦屋歴史の里では定期的にこのような企画展が行われているのですが、その開催期間と来場者数について、コロナ禍前の平成27年度から最近の状況はどうなっているのかお尋ねいたします。

○議長 辻本 一夫君

執行部の答弁を求めます。芦屋釜・歴史文化課長。

○芦屋釜・歴史文化課長 新郷 英弘君

それでは、御質問の件についてお答えいたします。芦屋町歴史民俗資料館・芦屋歴史の里の特別展の開催状況及び来館者数についてお答えいたします。

芦屋歴史の里では年間2回～3回の特別展を開催しています。1回当たりの特別展の開催期間は約2か月～4か月程度でございます。

来館者数については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により令和元年度末で来館者数が大きく変化いたしますので、まずコロナ禍前の5か年の状況をお答えいたします。有料と無料を合わせた総来館者数は、平成27年度3,935人、平成28年度7,284人、平成29年度3,879人、平成30年度3,836人、令和元年度3,777人となっています。次に、コロナ禍以後の令和2年度は1,626人、令和3年度は3,022人となっております。

なお、コロナ禍以後はですね、臨時休館等が発生しますので総入館者数での単純な比較が難しいため、1日の平均来館者数の比較でお答えいたします。コロナ禍前の平成27年度～令和元年度までの5か年の1日平均来館者数を見ると、通年では約15人であり、特別展開催時は約20人、非開催時は8人でございます。コロナ禍以後の令和2年度、令和3年度の1日平均来館者数

令和5年第1回定例会（萩原洋子議員一般質問）

は通年で約8人であり、特別展開催時で約12人、非開催時は約3人でございます。

これらのことから通年来館者数では、コロナ禍以後はコロナ禍前の約53%に減少しております。また、特別展開催の有無で見ますと、特別展開催時は約60%、非開催時は約38%に減少をしているということでございます。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

コロナ禍前の入場者数が約4,000人弱を推移し、令和2年度のコロナ禍は一時減少しましたが令和3年度は3,022人と、コロナ禍前の状態に回復しつつあると感じております。

そのような中、特に平成28年度の来場者数は7,284人と増加しております。その平成28年度の来場者数が増えた理由をお尋ねいたします。

○議長 辻本 一夫君

芦屋釜・歴史文化課長。

○芦屋釜・歴史文化課長 新郷 英弘君

平成28年度に来館者数が増加した要因についてお答えいたします。

7月20日～11月27日にかけて開催いたしました特別展「昭和の暮らし展」において、合計4,354人の来館者を記録したことによるものでございます。平成27年度から令和元年度にかけての1日当たりの特別展の平均入館者数は約20人ですけれども、この「昭和の暮らし展」の期間中は1日平均39人が来館しております。この特別展では昭和の暮らしにスポットを当ての中で、雑誌「暮らしの手帖」の展示を行いました。

その年に放映されたNHK朝の連続テレビ小説の内容と重なっていたこともありましてメディアに多く取り上げられ、来館者数が大きく増加したことによるものでございます。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

今の御答弁ですと、何か社会で人気のあるもののブームに乗れば来館者は増えるっていうのが分かりました。ただ、特別展が何か月も開催されているっていうのがありますが、その理由をお尋ねいたします。

○議長 辻本 一夫君

芦屋釜・歴史文化課長。

○芦屋釜・歴史文化課長 新郷 英弘君

特別展がいわゆる長めに開催されてるということなんですけども、現状で特別展の回数自体がですね、やはり年間2回～3回程度が限界でございまして、なかなかちょっと回数を増やすことは難しいという中にありまして、やっぱり来館者数自体は特別展開催時に増加するという傾向にありますので、ある程度長くすることで来館者増を図ってまいりたいということで、このような期間にしております。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

毎回ですね、ヒットするような特別展が必ず開ければ、当然来館者数も増えてまいります。しかし、必ずヒットするものが打てるかって言ったらそれは限らないと思うので、通常のお客さまに来ていただけるようにしていく取組が、今後必要じゃないかと思っております。

要旨2に移ります。芦屋歴史の里の来場者数増を目指す取組についてお尋ねしてまいります。

芦屋町総合振興計画における芦屋歴史の里の入館者数の目標値は、令和7年度には5,000人を目標としております。先ほども申しましたが、令和3年度の入場者数はコロナ禍前に比べ回復しつつありますが、この7年間で目標値を上回ったのは平成28年度の1回のみです。やはり、今後目標を達成するために、先ほども申し上げましたが対策が必要ではないかと思っております。

令和3年度の芦屋釜の里の入場者数は9,508人と、コロナ禍前の入場者数の約1万5,000人と比較しましてもまだまだ入場者数は戻っていませんが、せっかく芦屋釜の里まで、お近くまでですね、多くの方が御来場してらっしゃるということがございます。この方々を200メートルほんの——まあ近いんですけど、なかなか歴史の里まで呼び込めていないのが現状かと思っております。

この点について、課題をどうお考えなのかお伺いいたします。

○議長 辻本 一夫君

芦屋釜・歴史文化課長。

○芦屋釜・歴史文化課長 新郷 英弘君

御指摘のとおりですね、芦屋釜の里と芦屋歴史の里の連携は非常に重要なことだと考えております。で、課題ということですけども、やはりこの両館の来館者の回遊性を高めることは重要と考えておりますけども、おっしゃるとおり現状ではですね、十分になされていないことが課題と考えております。

特に芦屋歴史の里の来館者増という視点で見るとすれば、芦屋釜の里の来館者が芦屋歴史の里に来ていただけるようにですね、魅力向上を図るということが大変重要になってきますので、

令和5年第1回定例会（萩原洋子議員一般質問）

やはり芦屋釜の里での案内方法をどう改善するかということと、あと歴史の里の展示自体を魅力向上するかと、この辺りが課題になってくるかなというふうに考えております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

私も、やっぱり魅力、あと案内・周知・情報発信を今後どうしていくかということが大きな課題かなと思っております。

そこです、1番初めの機構見直しの目的でもあります芦屋釜の里との連携強化、観光及びシティープロモーションなどとの連携強化を図っていくことが今回の目的でした。その点がどう進んでるのかお尋ねいたします。

○議長 辻本 一夫君

芦屋釜・歴史文化課長。

○芦屋釜・歴史文化課長 新郷 英弘君

それでは、連携強化ということについてお答えをいたします。

まず、芦屋歴史の里と芦屋釜の里の連携強化についてお答えいたします。連携の現状としては、両館へ入館するための共通券の販売でございます。両館の行事を合わせた年間スケジュールの発行、芦屋釜の里のインスタグラムでの芦屋歴史の里の特別展紹介、芦屋釜の里開催のコンサートに合わせた芦屋歴史の里の夜間開館等を行っております。

昨年の芦屋釜・歴史文化課の発足により、情報共有あるいは人員体制等の連携は非常に強化されたと考えております。両館の連携については魅力的な展覧会やイベント開催による集客が重要であり、来館者の回遊性をさらに高める取組が必要です。両館において関連した展覧会を同時開催する等も一案と考えております。また、令和5年度は利用者の利便性の向上を図るため、両館でのキャッシュレス決済への対応等を進める計画でございます。

現在、より効果的な連携の検討を行っておりますので、今後の取組を反映させ、両館の連携をさらに強化したいと考えます。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

今、釜の里、歴史の里で共通したもののイベントを企画して考えていくというのも、「ああ、なるほどな。」と思いました。

令和5年第1回定例会（萩原洋子議員一般質問）

今ですね、共通券の発行の話がありました。共通券の発行をすれば、どの程度の効果が上がっているのか、その辺は評価されているのかお尋ねいたします。

○議長 辻本 一夫君

芦屋釜・歴史文化課長。

○芦屋釜・歴史文化課長 新郷 英弘君

今、共通券の話が出ましたので、芦屋釜の里と歴史の里ではですね、共通券を発行してまして、大人が300円でお子さんが150円ということでございます。

で、平成16年度に芦屋歴史の里が柏原に移転し、開館して以来、芦屋釜の里との共通券を発行しております。平成27年度から令和元年度にかけてのコロナ禍前の5か年の状況を見ますと、芦屋釜の里で発行した共通券で芦屋歴史の里に入館した人数は、年間平均311人でございます。これは芦屋歴史の里の総来館者の約7%に当たる人数でございます。令和2年度から令和3年度にかけてのコロナ禍以後2年間の状況を見ますと、芦屋釜の里で発行した共通券で芦屋歴史の里に入館した人数は、年間平均480人。これは、芦屋歴史の里総来館者の約21%に当たる人数でございます。共通券の割合がですね、非常に大きく増加しておりますのは、令和3年度に芦屋歴史の里で「矢野倅一展 ―探究心と技術者の魂―」という特別展を開催いたしましたことで、芦屋釜の里の来館者の多くが興味を持ち、共通券を購入したためでございます。

芦屋釜の里が発券する共通券の傾向を見ますと、芦屋歴史の里特別展開催時期のほうが共通券の発行数が多い傾向にあります。これは芦屋歴史の里の特別展が開催されているということで、来館者に「この機会に一緒に見学しよう」という心理が働くためと思われまます。これらのことから、芦屋釜の里との共通券は芦屋歴史の里の入館者増に一定の効果があったのではないかと考えております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

芦屋釜の里に来館された人が共通券を買おうと思ったのは、お声がけをされたんでしょうか。何か共通券を買おうという動機づけは、どこで発生したんでしょうか。

○議長 辻本 一夫君

芦屋釜・歴史文化課長。

○芦屋釜・歴史文化課長 新郷 英弘君

お答えいたします。

まずですね、芦屋釜の里に来られた段階でですね、必ず受付のほうで「共通券いかがですか。」

令和5年第1回定例会（萩原洋子議員一般質問）

ということをお案内いたします。その際に表示をしております、特別展のポスターを目の前に貼っておりますので、「こういった特別っておりますよ。」ということでご案内します。かつ、当然ながら館内にも貼っておりますし、あとはですね、ちょっと距離感が200メートル離れますので、その辺の距離感の説明もしつつですね、「歩いて3～4分ですよ。」ということで、そう遠くないということも案内しながらですね、共通券の発行をなるべく増やしたいということでやっております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

特別展がないときはどうされてるんですか。

○議長 辻本 一夫君

芦屋釜・歴史文化課長。

○芦屋釜・歴史文化課長 新郷 英弘君

お答えいたします。

特別展がないときも、やはり芦屋歴史の里のことの紹介といたしまししょうか、「歴史の里の共通券もありますけど、いかがでしょうか。」ということでご案内しております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

そうですね。私、昨年10月ぐらい、砂像展があつてるときにお伺いしましたけど、「共通券ありますよ。」という話はいただかなかつたかと記憶しております。なので、毎回全ての方にしているのかどうかは、ちょっと疑問でございます。

今ですね、窓口の方がお声がけして誘導してるということなんですけども、館内に行って特別展がなければ、「行こう。」というような仕掛けが足りないんじゃないかなというふうに私はちょっと思っております。今までは「人気のある企画展を行えば目標は達成する。特別展があればいいんだ。」っていうふうに、もしかしたら思われていたのかもしれないなと思っております。ただ、今後もですね、常設展のみ、特別展がない時期もやはり来場者を増やしていくことが今後、総合計画の目標を達成することにつながるのではないかなと思います。

先日ですね、どれくらいの方がグーグルの口コミやSNS等で歴史の里のことを発信しているのか調べてみました。企画展のことや「小さいながら充実した資料館」とかですね、「芦屋にゆか

りがなくても楽しめる」といった投稿も見られまして、少ないんですけども「行ってよかった」という投稿が多かったと私は思いました。ただ、その一方でですね、昨日、水巻町の歴史資料館に行ってまいりました。芦屋歴史の里に比べましたらスペース的には狭いんですけども、とても展示品が絞られていまして、ライティングもあってですね、すっきりした印象でございました。

昨年、民生文教委員会の視察でですね、東京六本木にある泉屋博古館に行ってまいりました。芦屋釜の展示期間にはちょっと外れてしまっていて、それは拝見できなかったんですけども、「こういうところに芦屋釜も展示されるんだ」というふうなことで、皆さんと一緒に行ってまいりましたんですけども、とてもスタイリッシュと申し上げましょうか、洗練された空間だなと思って、今後はこういったものが主流になってくるんじゃないかなというふうなことを感じて戻ってまいりました。歴史の里はですね、水巻の歴史資料館さんとかに比べればですね、スペースもありまして、とても興味深いものがたくさん私はあると思います。それをもっとですね、見せ方を工夫すれば、さらに多くの方に来ていただけるものに変わっていくんじゃないかなと思っております。

そこで御提案です。昭和の時代をですね、再現しているコーナーがございます。ここを発信したいなと思ってですね、撮影をしたんですけど、残念ながら昭和感、レトロ感がちょっと出ないんですね。「何でだろう。」って、ちょっと山田さんとかに相談してみました。そしたらやっぱりライティング、今の照明が昭和の時代の照明とは違うんですね、その辺が出てこないんだという話をいただいて、確かに芦屋釜のほうもですね、ライトも少し絞って暗めにしていますんで、でも趣がありますよね。で、平成28年の「昭和の暮し展」が人気だったことを鑑みればですね、そういった照明も今後、検討するべきだと私は思います。

あと、インスタ映えする撮影スポットですね。投稿された中にいろんな写真が上がってたんですけど、私も行って「どの角度で撮ったら、もっといいものが撮れるんだろう。」というふうに思うんですけど、いい角度みたいのを「ここで撮ると、いい写真が撮れる」みたいな場所がちょっと準備してあるとですね、そういうものもどんどん発信につながるんじゃないかなと思います。つまり見せ方次第ですね、歴史の里ももっと魅力のある場所になるんじゃないかなと思います。

芦屋釜の里は着々と工事が進んでおります。リニューアルオープンした釜の里とともに歴史の里にも多くの方に足を運んでいただけるよう検討が必要です。ちょっと言い忘れましたが、視力障害のある方にも楽しんでいただけるように音声ガイドなんかも、みやこ町の資料館さんですね、導入してるっていうのがリニューアルオープンで書いてありました。そういうのもあればですね、新たなお客様がターゲットとして広げられるんじゃないかなと思います。ごめんなさい、ちょっと遅れました。

私は昨年、歴史文化を生かした町の魅力づくりにですね、機構見直しの際に町長部局に移管することに賛成いたしました。町の歴史文化を推進するためには、まずは拠点となる芦屋歴史の里

令和5年第1回定例会（萩原洋子議員一般質問）

をもっと魅力のある場所にするべきだと思います。そこに予算をどうつけるかが町として大事な選択だと思います。今までは教育委員会部局であった、だけど町長部局にしたという意味っていうのが、そこにあるんじゃないかなと思っております。ある程度ですね、展示環境の整備なども今後必要ではないかと思っております。

町はレジャー港とかに多額のお金を、いろんな費用をかけていらっしゃいます。それはそれで1つだと思うんですが、この歴史文化、芦屋町にはたくさんいいものが残っております。これをもっとファンの方を増やして、また違う側面で多くの方を魅了するような町にしていきたいと私は思っておりますが、町長のお考えをお尋ねいたします。

○議長 辻本 一夫君

町長。

○町長 波多野 茂丸君

芦屋歴史の里のお話をされたわけでございますが、先ほど川上議員の質問でも言いましたように、芦屋はまずは海と、そして芦屋町の深い歴史のある、こういう小さな町で歴史館のある町はないと思うわけでございますが、そのことを知ってもらうためにも、恐らく釜の里と歴史の里、あの距離を歩いても10分かからないと思うんですね。それで、ここに来ればそこにも行けるというような状況の中で私はあそこに移転したのではないかと思っておるわけでございますが、芦屋町の魅力ある歴史文化を保存・活用して、町内外に発信するための拠点施設として芦屋歴史の里の役割は非常に重要なことだと思っております。

先ほどもお話ししましたように平成16年に柏原に——今のところに移転したわけでございますが、もう既に20年経過しております。施設も老朽化しておりますので、整備をするというのはこれは当然のことです。展示環境の整備それから、るる議員が言われたように展示内容の充実を図ること、このことも当然重要なことであるかと思っております。

この芦屋のたくさんの魅力ある町をですね、広く町内外に伝えて地域振興に生かすとともに、町民の皆さん方のシビックプライドの向上を図るためにも芦屋歴史の里の充実ということに取り組んでまいりたいと思っておりますので、いろいろ今日お話しされたこと以外にも気づいたことがございましたら、どんどんお話ししていただきたいと思っておりますので、助言を賜りたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

今、町長からの前向きな御答弁いただきまして、ぜひともしっかり分析していただいてですね、どうしたらいいのか、いろんな多方面でせっかくぎゅっと絞った課ができたので、充実したもの

令和5年第1回定例会（萩原洋子議員一般質問）

にさせていただきたいと思います。

そのためにはですね、続きます、要旨3、今後の実施計画について。

芦屋町の目指す将来を実現するために基本構想、基本計画、実施計画がございます。今年の1月20日から第2期芦屋町観光基本構想の素案に対するパブリックコメントが実施されまして、その中には町の歴史文化についての戦略も見られました。しかしながら、芦屋釜・歴史文化課となって新たな年度を迎えた今、いまだに前所管の生涯学習課公民館・文化係が立案した令和4年度～令和6年度までの実施計画しかございません。昨年の6月議会でお尋ねしたところは「新たなプランはない。」とのことでした。やはり、それでは効果的な事業は展開できないと私は思います。

今後、芦屋釜・歴史文化課として新たな実施計画が必要と思いますが、いかがでしょうか。御答弁を求めます。

○議長 辻本 一夫君

芦屋釜・歴史文化課長。

○芦屋釜・歴史文化課長 新郷 英弘君

御質問にお答えいたします。

現在公開されております実施計画は、令和4年度～令和6年度までの計画でございます。昨年の7月にですね、芦屋歴史の里の業務が移管されまして、芦屋釜・歴史文化課が発足したことに伴いまして、改めて問題点の整理と歴史文化を生かした町の魅力づくりのための方策を検討いたしました。それにより実施計画の見直しを行っております。

具体的には、情報発信力強化のための芦屋歴史の里の新たなホームページの立ち上げ、来館者の利便性向上のためのキャッシュレス決済の導入等を行う計画です。また、町指定文化財の新たな指定、魅力的な展覧会の開催、文化財管理システムの導入、文化財ボランティアガイド育成等を検討しております。

これらについては令和5年度～令和7年度の実施計画に上げておりまして、必要に応じて予算を計上するように考えております。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

しっかり取り組んでいただきたいと思います。

最後になりますが、「箱物行政」という言葉がございます。有益と思えない公共事業、公共施設の建設に重点を置く国や地方自治体の政策を批判する言葉でございます。

私は今年の、さっき申し上げましたけれども砂像展の頃に芦屋釜の里にお伺いいたしました。その日は土曜日でしたが、人はあまり訪れていなかったんですけども、中学生の生徒が数人ですね、池の鯉を見ながら寝そべてひなたぼっこしておりました。私は朝の挨拶運動で顔見知りの生徒もおりましたので、声をかけましたら「遊びに来ている。」と。中学生が芦屋釜の里に遊びに来てるんです。その光景を見てですね、もう本当にほのぼのとした温かい気持ちになりました。もしも芦屋町が箱物行政をしていたとしたらですね、このように子供たちが遊びに来るとは、私は思えません。今までの町の取組の成果だと感じました。「是々非々」っていうのが、よく政治の言葉で言われます。「いいことはいい、悪いことは悪い。」なので、「今ここは足りないんだけど、でもここはいいよ。」っていうのをやっぱりしっかり発信していく、言っていくことがやっぱり大事だなと思っております。

また、堂山にある御堂や平家の石塔群の周囲をボランティア清掃している方からですね、せっかく平家の石塔群の前を清掃しているので、一昨年でしょうか、山鹿秀遠の講話ですかね、そういったお話が歴史の里であってほしいんですけども、「3回行ったんだよ。」って。「私、3回も言ったから、このことを少し話せるようになったと思って、堂山に来た方に少しやっぱり町の歴史を伝えていけるようになりたい。」っていうようなお声をいただいたんですね。子供たちが文化になじむとか、そういった大人の方も巻き込んで、自分ごととして町の歴史が入っていくっていうことは、とっても大事なことだなってすごい感じたんですよ。行政だけがやってるんじゃないかって、住民も一緒に巻き込んで歴史文化を進めていくっていうことが本当は大事なんじゃないかなって、それが活性化につながるんじゃないかなというふうに私は思っております。今後も歴史ボランティアガイド、さっきお話ありましたけども、町民を巻き込んで、ぜひとも芦屋町の歴史文化を進めていただきたいと思います。

では次、件名2、柏原西方荒波対策についてお尋ねしてまいります。

柏原西方海岸では平成27年度に国庫補助・県補助を受け、北西からの荒波によって損傷した護岸の改修を行いました。その後も打ち寄せる荒波が防波堤を越え、強い西風で波がしぶきとなって周辺家屋を直撃しているため、その護岸背後で暮らす町民は長年にわたり悩まし続けられています。そのため、町は当地区海域での荒波対策を県に要望しているのですが、現在も大きく対策は進んでおりません。そこで、次の点についてお伺いいたします。

要旨1、柏原西方海岸の護岸改修についてお尋ねいたします。

平成28年度に行われました護岸改修は、どのような改修工事だったのかお尋ねいたします。

○議長 辻本 一夫君

産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

令和5年第1回定例会（萩原洋子議員一般質問）

それではお答えいたします。

平成27年度から28年度にかけて行われた工事のことになりますが、護岸改修工事の主な内容を今からお答えします。海岸護岸は、海岸の現地盤をコンクリートや石材などで被覆して浸食から守り、海水などが陸側へ侵入するのを防ぐ役割を持った構造物となっております。柏原漁港海岸保全区域内の老朽化する護岸について、保全対策の検討・資料作成を主たる目的とし、平成26年度に柏原漁港海岸保全区域老朽化対策計画実施設計を行っております。この実施設計の中で護岸の状況等を把握し、関係者とも協議を行い、老朽化対策として27年度に柏原漁港海岸護岸改修工事を実施したのとなっております。

主な施工内容は、波や漂砂等によって散乱した根固ブロック——護岸の先端が流れて洗掘されないように根元を押さえつける構造物になりますが、こちらを基礎から補修する工事と、海側にクレーン等の建設重機を乗り入れるための仮設道路の設置工事及びその撤去工事となっております。なお、工事は平成27年から28年度にかけ実施され、28年3月17日着工、平成28年8月10日竣工となっております。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

工事の際に、何らかの荒波対策っていうのは行われたんでしょうか。

○議長 辻本 一夫君

産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

「工事の際に何らかの荒波対策を行ったのか。」という御質問になりますが、平成27年度の工事につきましては、海岸保全の観点から老朽化した護岸を改修したのとなっております。内容は先ほど御説明いたしました、護岸の根固ブロックを基礎から補修することが主なものとなっており、新たな荒波対策等は含まれておりません。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

要旨2、国や県など、関係機関との協議の状況についてお尋ねしてまいります。

この護岸改修工事の際にですね、今お話があったように仮設道路を設置したんですけども、当時の柏原区長、護岸背後の地区の組長、そして遠賀漁協柏原支所長の3名のお名前、町に対し

令和5年第1回定例会（萩原洋子議員一般質問）

陳情書を提出されております。陳情の内容は、「護岸改修工事の際に造られた仮設道路に使用している捨て石を活用し、荒波対策工事を行ってほしい。」といった陳情書でございました。改修工事中に設置された仮設道路があったときは荒波が落ち着いていたようで、そのような陳情を行ったとお伺いしております。しかし、仮設道路は作業スペースを確保する目的として一時的に設置されたため安全性を確保する構造になっておらず、台風や荒波、強風時に仮設道路で使用している捨て石が近隣家屋に飛散し被害を及ぼす可能性があるとのことで、要望にはお応えできないとの回答がっております。

そして、その回答書の中にですね、「荒波対策については今後も国及び福岡県など関係機関と協議を行い、検討していきたい。また、将来の大地震等に備えた津波対策についても検討が必要ではないかと考えている。」と、町の荒波対策に対する考えをですね、述べられておりました。これを読んだ地域の方々はですね、「町も、被害を受けてる町民のために積極的に動いてくれるんだろう。」ということをおもわれたという話を聞きました。しかし、いまだに大きな動きはございません。そこでお伺いします。

護岸改修後、国や県など関係機関とどのような協議を行ってこられたのかお尋ねいたします。

○議長 辻本 一夫君

産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

お答えいたします。

柏原西方の荒波対策について、国や県など関係機関との協議や要望につきましては現在、福岡県へ、柏原西方荒波の原因の1つとして考えられます柏原西方の砂浜の浸食に対し、その原因究明のための広域的な調査について、福岡県予算に対する要望事項として要望書を提出しております。また、令和元年8月に提出しております福岡県への要望の中で「海岸調査の実施」や「柏原西方海岸浸食問題に対する原因究明のための広域的な調査について」とし、漂砂調査等各種調査の実施などを要望し、併せて中長期的事項としまして、芦屋町・岡垣町の海岸における土砂の動きを把握する調査の実施の要望を行っているところでございます。そのほかでは、要望活動としまして平成30年度、令和2年度に福岡県議会農林水産委員会管内視察において、町の要望としまして柏原西方の荒波対策の要望を行っているところでございます。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

護岸が壊れたのはですね、その前から荒波があった結果、護岸が破損したわけなんですね。な

ので、その周辺でお暮らしの方っていうのは、もっとその前から長期間お困りになっていたわけなんですね。

要旨3、今後の荒波対策についてお尋ねします。

私は2年半前にですね、荒波で困ってる町民の方から相談を受けました。「要望を出してるんだけど、なかなか進展がない。」ということでした。2年半前と言いましたら私まだ1期目で、1年ちょっとたったぐらいでございました。まだまだ新人の私に何ができるんだろうか。そして荒波を防ぐための何らかの対策を講じた場合にですね、景観や潮など今、芦屋港も砂が増えた、柏原のほうは砂がなくなった、何か造作物を入れればですね、潮の流れが変わって自然に影響を与えます。「海への影響、どうなんだろう。」とても悩みました。しかし、困っている町民の現状や今までの経緯、相談者の方の強い思い、そして将来の大地震といった津波の対策の検討も必要だろうと感じまして、この問題に取り組むことに進んでまいりました。

その後、何度も役場の担当者話し、海の様子を調べたりと、海のことをあんまり分からなかった私ですが、この2年、困ってる方々と本当に一緒に取り組んでまいりました。令和3年2月、荒波で困ってる町民と一緒に町の担当の方ですね、農林水産係の方と話し合いの場を持ちました。町もですね、県への要望を行うための資料として、令和3年4月から1年間をめぐり週に2～3回、潮位や風速の状況を確認することになりました。そのときは本当にみんなで喜びました。町と一緒に荒波対策に取り組んでいけるっていう思いで、本当にいたのは記憶しております。

しかし役場の職員の方々もですね、他の業務もあり、必ず荒波の記録が取れるとは限りません。そこで、少しでも正確な記録の収集を目的として、荒波で被害を受けてる町民を中心に私も含む6名で西方荒波対策チームを立ち上げ、自分たちでも記録していくことにいたしました。記録はグループLINEを、皆さん高齢なんですけどグループLINEの中で「今日は、しげが来てる。」、「波が高い。」、「写真を撮った。こんなんだよ。」って、みんなでLINE上に書き込みながら写真をアップし、風速と潮位、風向きですね、そういうのも入れていただいて私のほうが集計するっていう活動を、もうそろそろ2年になります。

そして今年の5月ですね、1年たったところで産業観光課農林水産係の担当者の方々と荒波対策チームのメンバー6人、そして遠賀漁協柏原支所長にも御参加いただき、双方で令和3年度の荒波の状況報告を行いました。町の担当者の方々も、定期的に海岸には足を運んでいただいているのは十分存じております。ただ、「荒波が確認できたのは3回。」との報告でした。

そこで、皆様に御配付しております私の資料をお開きください。令和3年度の柏原西方海岸の荒波状況を示したものです。日付、曜日、時間、潮、風速、あと備考欄が書いてあります。作成日は今年の12月、荒波対策等で現地調査を再度行ったときの日付で作成しております。中を見ていただきますと3回っていうところがですね、言われたんですが、日付を照らし合わせるとですね、

令和5年第1回定例会（萩原洋子議員一般質問）

土曜日・日曜日というのが半数ぐらいはございます。なので、記録できなくっても仕方がないかなとは思っております。

あと、町のほうがですね、記録いただいているのが11月に2回ほど荒波があったっていうふうに記録していただいているんですが、私どものほうでは11月が1回で、11月10日、11月20日に荒波があったっていう記録をしていただいているところが抜けておりますので、まだまだ自分たちの調査も不正確ではあるのかなと思っております。したがって、今の回数よりも少し多いのかなと思っております。写真が撮れなかったところもありますが、おおむね満潮、潮が高いとき、あと風速がですね、幾ら風があってもですね、ほかの風向きだと波が上がらないっていうのが、この2年で私も大分見れるようになった次第でございます。

風が強い日はですね、家が揺れるほどだと聞きます。この地域では、ほかの地域と比較しましても塩害でポストが壊れているお宅も多く、玄関ドアの鍵やシャッターもさびて動かなくなっております。写真でも見ていただければ分かりますが、かなり小さなしぶきが飛んでいるのが分かります。ひどいときはもう、あそこに立つとびしょびしょになるぐらい本当にぬれるんです。先日でもですね、強風で雨戸が飛んだっていうお話もいただきました。

行政の方がですね、越波していないと判断した場合もあるかもしれませんが、風で本当に細かなしぶきが飛んでおります。私たちが確認したこの回数、どのように判断されるか分かりません。

「少ないんじゃないか、これぐらいで。」「こんなにもあるのか。」「そういうふうに見えるのか、どのように判断されるか分かりませんが、この護岸の背後で暮らす方々が長年苦しめられていたことは事実です。自分たちの家がですね、潮がかぶるって想像してみてください。あそこの方はですね、水で洗い流してる方もいらっしゃるんですよ。さびてます。本当におつらいだろうなと思います。長年荒波で困ってる方々は、本当に早期の改善を求めています。

現在、県とはどのような協議を行われているのか、直近の情報をいただけますでしょうか。よろしくお願いたします。

○議長 辻本 一夫君

産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

県との直近の協議状況ということでございます。現在、県もですね、要望を受けまして、西方の荒波対策に関する窓口として相談できるような、少し体制ができてきたところということです。ただ、現状としましては、対策に関する具体的な話にはまだ至っておりません。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

皆さんずっと待ってるんです。前と今とで何か変わったことあるんでしょうか。

○議長 辻本 一夫君

産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

「以前と比べて変わったところはあるか。」というようにお話でございしますが、対応などの変化につきましては現在ですね、広域的な調査について進展というのはございません。しかし、先ほども少し触れましたが、県も要望を受け、柏原西方の状況を把握してきております。

現在は漁港の担当であります水産振興課が窓口となり、担当者と対策に関する相談などが行える状況に変わってきたというところでございます。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

海の問題は、なかなか難しいのは存じております。町の要望書にもですね、洞山をですね、景勝地のため景観に配慮した対策をお願いするっていうのも入っております。それも重々分かっているんですが、困っている住民の方も本当にいるのも理解していただきたいんです。いつになるのか、高齢の方はですね、もう「自分が死ぬまでにどうにか少しは進めていただきたい。」、そういう思いで私のほうに相談に来られております。

そこで、町としてどうお考えなのかですね、当然要望書を出してらっしゃるので町も対策を求めていると思いますが、町長の口からですね、どうお考えなのかお伺いしたいと思います。御答弁を求めます。よろしくお願いいたします。

○議長 辻本 一夫君

町長。

○町長 波多野 茂丸君

この柏原の西方の荒波対策ということでございますが、これはもう今に始まったことではなく、私どもがまだ、そうですね、中学校小学校、その頃ぐらいにもこの荒波で非常に潮は家まで飛んでくると、風の強いときはですね。その都度、部分的ですよ、部分的にいろんな形で対策はされておったんですが、やはりいろんな気候変動だとかそういう形の中で風向きも激しくなったり潮の流れとかですね、そういうことは私分かりませんが、収まらないというのはやはりそういう自然現象があったのではないかと考えております。まず、効果的なやり方というのはどうしたらいいかということから考えなければならないと考えております。それにはまず原因を把握しなけ

ればですね、前に進まないと思う。同じことが繰り返されると言われたように思っております。

この件につきましては芦屋町から岡垣町にかけての海岸線における海岸の浸食、それから砂の堆積、海岸保全対策の推進を働きかけるために、平成24年に芦屋町・岡垣町海岸保全対策協議会が設立されました。議員も御存じのことだと思いますが、平成25年10月に福岡県への要望として県に対し要望書を提出し、県は要望を受けて平成26年1月に三里松原海岸の問題解決と保全情報の共有化のため、県主体により三里松原海岸保全連絡会議を開催していくこととなりまして、現在もこの会議は継続しておるわけですが、やはり岡垣は岡垣、芦屋は芦屋でどうしても自分とこの町という形の中で進んでいくんですが、これはやはり岡垣も砂がえぐられていくということですね、三里松原も非常に問題になっておるわけでございます。

それと、もう忘れられようとしていますがウミガメが岡垣のほうにですね、波津の近くの海岸に卵を産みに来て、それももう最近聞いたこともありませんし、そういうような生態系のこともあると思うんですが、多方面からですね、その原因を究明、それから広域的な調査、それからそういうまず調査をしてくださいという要望を今、県にしております。ただ「工事をやりました」、そうではなく、その原因追及のためですね、広範囲な調査を今、要望しておるところであります。町としては対策を講じていく上でですね、後戻りがないよう関係機関と今後、十分協議を行いまして対策の推進に向けてまいりたいと思いますので、よろしく願い申し上げます。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

確かにしっかり検討していただいてですね、今後どうしていくか考えていただきたいというのは思いますが、確かに景観っていうのも大事ですが、やはり住民の安全とか、危険にさらされている、先ほどもシャッターが飛んだ、そういったこともあります。住民の安全をですね、ぜひとも考えるということで、一生懸命にならなければ何も進まないんじゃないですか。こうやって住民の方たちが自分たちで調査して、「これだけあります。」と写真も上げてきてます。一生懸命にならないと。レジャー港も一生懸命やってるからここまで進んだんですね。なら、これもしっかり一生懸命やってください。何年間も「やっています。やっています。」では何も分かりませんよ。

この要望書、要望してますけど回答欄もないので、どんな回答をいただいているか分かりません。担当が代わったら、「どうなってるんだろう。」、そういうことになりますよね、担当者が代わったら。もう住民の方、「もうそろそろ自分は、もう後がない。」、そういうふうなお声で何十年も待ってるんです。ぜひとも、どうぞよろしくお願いいたします。

以上で、私の一般質問を終わります。

○議長 辻本 一夫君

令和5年第1回定例会（萩原洋子議員一般質問）

以上で、萩原議員の一般質問は終わりました。